

俳句自由律

忘れる

松本西夏

都府楼跡の原歩く 忘るべきかと息を溜めつつ
忘れよと投げられし言葉激しく 胸を締めくる
左頬打たれ右頬も出せと 叶わぬことばかりを
やわではない 素直であろうと務めてはきたが
梃子でも動かぬという 八十八の母なり今なお
子らを鵜飼いの鵜さながらに配し 指図怠らぬ
幾度も危機あり 心臓腎臓肺臓脾臓の管外せず